

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん室根

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900140		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん室根		
所在地	〒029-1201 岩手県一関市室根町折壁字兵沢114番地1		
自己評価作成日	令和4年1月11日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成23年12月25日に開所し、早いもので昨年末満11年を迎えた。長年勤務している職員が多いことから利用者様・ご家族様との信頼関係が構築できており、サービスにも満足していただいていると感じている。コロナ禍で外出支援や地域行事への参加が出せず、ご家族様の面会も制限しているため利用者様の精神面をできるだけ職員がフォローするよう心掛けている。11周年を迎えても初心を忘れず、法人理念とホーム独自の介護理念を常に念頭に置いて、今後も利用者様に寄り添った支援を行なっていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、森林や農地に囲まれた自然豊かな場所にあり、コロナ禍でボランティアなどの交流が制限されるなかにあっても、農家からの野菜等のお裾分けや地域住民の避難訓練への参加支援など、これまでの交流を大切に継続している。また、運営に当たっては、ミーティング等を通じて介護理念を共有し、チェックシートで確認しながら日々の業務に当たっている。家族に利用者の生活情報を「お知らせ」として毎月お送りするほか、利用料の支払い時など来所の際には家族の意見や希望等を伺っている。職員アンケートや職員会議での提案等(室内の運動会やドライブ、コロナ禍の換気扇導入など)を業務の改善や施設整備に反映させるとともに、職員への昼食費の半額補助やエブロンなどの被服費補助、資格取得への支援など、働きやすい環境づくりにも積極的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和4年4月18日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をネームプレートの裏面に明示し毎朝の小ミーティングや月例ミーティングの際に唱和することで、職員全員で意識し実践に努めている。	職員皆で作った理念を介護の場面で実践していくため、日々唱和しながら、チェックシートを活用して振り返っている。ケアプランや日々のケース対応で、理念を念頭に目線と方向性を合わせながら、より良い介護を目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶を始め、地域の道路清掃へ積極的に参加している。また、コロナ禍前には地域のボランティアの方が踊り等の慰問に来て下さる機会を定期的にもうけていたが、現在は行えていない。	コロナ禍の中、限定されているものの、散歩中の挨拶や野菜等のお裾分け、草取りの支援などを通して交流を大切に継続している。コロナ明けには普段通り敬老会やボランティア受け入れ等を行いながら交流を重ねたいと、今からプランの準備を始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前には認知症キャラバンメイト養成講座を受けている。 コロナ禍で連絡会等が中止になっているが、今後も開催時には参加していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、令和2年1月より中止している。以前は2か月に1回開催し、ホームの利用状況や活動報告を行い意見交換の場となっていた。今後、感染対策しながら開催していきたい。	2か月ごとの定例開催としているものの、長引くコロナ禍にあって、未だに書面での会議開催となっている。委員には、ホームの運営状況や利用者の活動状況などについて、広報やお便りなど通じて可能な限り小まめにお知らせしている。	子どもとの触れ合う機会につなげるため、運営推進会議の委員に保育園等の関係者を加えることについて検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課窓口へ定期的に足を運び、各種書類の届け出を行っている。また、入退去に関する相談や災害情報の連絡を頂いている。	運営推進会議を書面開催としているため、市からの来訪はなく、助言や指導、情報交換は、介護保険関係事務の手続等で、窓口を訪問した際に行っている。市役所からの行政情報は電話で受けるほか、防災情報は、FM端末で入手している。役所との連携は良好に図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、ホーム内で定期的に話し合っている。コロナ禍のため外部研修への参加は見合わせている。	身体拘束防止委員会を3か月ごとに開催し、スピーチロック等の研修のほか、身体拘束につながりやすい事例について、マニュアルを参考に意見を出し合い、拘束をしないケアの研鑽に努めている。玄関の施錠は防犯対策のため、夜間のみとしている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での勉強会を設け、職員一人ひとりが利用者様の立場になり、安心して生活していただけるよう心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者虐待防止マニュアルを参照しながら、ミーティングや勉強会を通し、身体的虐待だけでなく精神的虐待にはどういうものがあるか再確認し、言葉使いにも注意するよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約時には、ご家族様の理解を得られるよう、十分な説明を行っている。また、不安や疑問点がないか面会時等に確認し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者様やご家族様が意見、要望を伝えやすいよう関係づくりに努めている。また常時玄関に意見箱を設置し、お声がけしている。	家族の来訪があった際、管理者を含めて勤務する職員が、皆が担当であるとの意識を共有してお話を伺うように心がけている。特に意見が出されないため、毎月のお便りや写真等を盛り込んだ広報で、細かに生活の状況をお知らせし、意見や要望等につなげようと努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員の意見を聞くように心がけている。また、代表者はミーティングや職員アンケート等で職員の要望等を聞く機会を設けている。	毎月のミーティングや毎日の小ミーティングのほか、代表による面談や職員アンケートなどを行いながら、職員との意思疎通を図っている。勤務体制の調整や資格取得等について提案が出され、今できること、将来的な課題などに整理し、聴きっぱなしにせず確りと対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や勤務時間等様々な条件の受け入れ等の話し合いを持つなど職場環境を整備している。		

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップを目指せるよう資格取得の費用や研修代等を法人で負担している。前年度は介護福祉士取得のための実務者研修へ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部研修の参加や交流する機会が難しいが、介護支援専門員更新研修等の専門研修でのネットワークを通じて交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お問い合わせの段階から、不安や困っていることを傾聴している。ご本人様の発言、行動や仕草、表情等から思いをくみ取り対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活歴や介護で困っていること等を丁寧に伺っている。実調や契約を通し入居後どのように生活していただきたいか意向を聞きながら入居後一か月間情報収集してケアプランを作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることやその根本的な原因を見極め、居宅支援サービス等を含めた情報等を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様がご自分で出来る事は声掛けにて促し、職員と協力して行うことで暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の普段の様子をきちんとお伝えし、ご家族と職員がご本人を共に支えて行けるような関係を保っている。		

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この一年間においては、コロナ禍で外出や面会を制限させていただいており、以前より支援できていない。電話やお手紙にて馴染みの関係性を大切にしている。	馴染みの関係が家族等に絞られてきている中、友人知人、時には孫が来訪される方もあり、コロナ禍のわずかな時間を惜しむように楽しんでいる。馴染みの人や場所などについて、入居時の情報を活用しながら、新たな馴染みづくりにも知恵を絞っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様方の生まれもった性格上、他者との良好な関係を必要としない方もいらっしゃるが、職員がうまく仲介し、なるべく孤立しないような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅へ帰られた利用者様には在宅サービスの情報提供等を行うなど、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から希望意向などを汲み取り安全を留意しながらなるべく本人本位にできるよう努めている。	利用開始時のアセスメントに加え、話せる方からは直接聴き、話せない方からは入浴時など心がほぐれた際に声がけしたり、表情や態度等の反応を確認しながら、思いや意向の把握に努めている。基本的には、自宅で過ごしてきた暮らし方に沿うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や利用していたサービス事業所から事前に情報を収集し、生活歴や生活環境の把握に努めている。また、入居前に自宅等を訪問してご本人・ご家族と面談している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの毎日の心身の状態を、生活記録や体調管理表・排泄記録をもとに職員で情報を共有し、細かな点は朝・夕の引継ぎの際に申し送りを行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当制にして心身の状態やケアの変化を記入している。介護計画もミーティング等で気づきや自立へのケア、介護等の工夫について話し合い反映している。ご本人からは生活の中での要望などを記録し、ご家族からは面会の際に意向や要望を伺い反映している。	利用開始当初は暫定プランとして作成し、利用者の状態変化など経過を見ながら本プランにつなげている。居室担当とケアマネは、3ヵ月毎に目標達成状況を確認するとともに、6ヶ月ごとにプランを見直し、家族等への説明と同意を経て新たなプランを作成している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録へ日中・夜間帯のご本人の発言や様子を記録し情報を共有している。また、毎日の小ミーティングでも気づきやケアについて、その都度話し合い実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診や外出等にも家族様に連絡し、臨機応変に対応している。昨年は歩行のリハビリの為、老健に2ヶ月程入所したケースもあり、個々の必要なニーズへ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は地域の収穫祭や敬老会に参加していた。また、避難訓練への参加やボランティアの受け入れを行っていた。現在は地元の美容師による訪問しての散髪を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医との関係性を大切に、継続できるように支援している。家族様が付き添いを行う際は、日頃の様子や体調の変化・お薬等について説明し医師に報告を依頼している。	入居前からのかかりつけ医となっている。定期通院は、家族等の同行を基本とし、都合等のある際には、柔軟に職員が対応している。受診時は、バイタル等の情報を提供し円滑な受診につなげている。普段は、訪問看護師が健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に利用者様の生活の様子や心身の変化等を伝え、適切なケア方法の指示を受け連携して体調管理に努めている。また、受診が必要との指示があった際は家族様に報告し、受診に繋げて重症化を予防している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際には、病院関係者やご家族様と情報交換や相談を行い、利用者様の安心や早期退院に努めている。また、家族様が受診対応が困難な際は職員が付き添い、病院関係者との関係作りに努めている。		

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針の説明をするとともに、ご本人様やご家族様の意向の確認を行うように努めている。また、体調の変化等があった際にはご家族に報告し、再度意向を確認している。	看取り指針を作成し、家族等の同意を得ているが、病院に搬送されるか、特養等に入所された後に看取られる方が殆どで、近年の看取りはない。医療機関や訪問看護師などと協議を重ねながら、事業所での看取りに対応していきたいとしている。	ホームでの看取り体制の整備に向け、医療機関等との連携・調整を図りながら、具体的な検討を進めることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍の為、勉強会や救命講習の開催がなく参加できていない状況である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく水害等の災害に備えた訓練を定期的に行っている。昨年の台風時、市内にレベル3の避難警告が発令された際は姉妹ホームへ避難するなどの協力体制を築いている。	定例の訓練は、年2回火災想定で行っているが、そのほか水害や地震にも配慮した訓練も合わせて実施している。訓練には地域の協力員や消防団の参加を得て行い、地域の協力体制も出来ている。職員はAED講習や消火講習も受講している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から個人の理解に努め、利用者様を尊重した言葉遣いを心がけて支援している。また、秘密保持とプライバシーの確保に努め、利用者が安心して生活できるように支援している。	利用者は「人生の先輩」という意識を職員間で共有し、まず敬うこと、言葉遣いには十分に留意すること、傾聴することを忘れないようにしている。呼びかけは「さん付け」として失礼のないように心がけており、トイレ誘導はさりげなく小声で優しくとし、プライバシーにも心配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の日頃の何気ない言動や表情・行動などから、思いや希望を生活記録に記入している。また、自己決定できるような声かけ等を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりがその日の気分や体調に合わせて、居室で外を眺めて過ごしたり、ソファで休んだり等、思い思いに希望に沿って過ごせるように支援している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの生活習慣のこだわりを大切に、出来る事は本人様が行っている。季節感を意識して、気温に合わせた衣類の調節を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日には好みのメニューを提供し、喜んで頂いている。また、馴染みの料理や旬の食材を提供し食事に興味を持てるように努めている。個々の力に合わせた役割を持ち、職員と一緒に片付け等を行っている。	朝夕の食事は手作りで提供しているが、昼食にはチルド食を活用する時もある。利用者の希望にも耳を傾け、工夫しながら美味しく作っている。利用者は、食器洗いなど後片付けを中心に、出来るところを手伝っている。誕生会等には希望メニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食チェック表を活用し、職員間で把握し共有している。食事量や水分量が少ない方には、嗜好品や栄養補助食品を提供している。また、一人ひとりの状態に合わせ食事形態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけや用具の準備を行なって利用者様の出来ない部分を支援している。今年7月から歯科訪問診療を利用し、口腔ケアと治療に力を入れて取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の尿意や排尿の感覚を把握して本人様の残存機能を活かし、トイレで排泄できるよう支援している。また、夜間にトイレまで行くのが困難な利用者様は安全面に配慮しPTを使用している。	殆どの利用者は何らかの介護用品を利用しているが、日中夜間を通し職員の声かけでトイレでの排泄を続けている。トイレ排泄が心配な方には、安心のためポータブルトイレを居室に配置している。排泄機能は少し改善した方を含めて皆さん維持されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便周期を把握している。日頃から運動や食物繊維、牛乳などの摂取で便秘の予防に努めている。また、決まった時間に便座に座するという行動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルを測定し、その日の体調を考慮して安全に入浴できるよう支援している。また入浴剤を活用して、リラックスし気持ちよく入浴できるように配慮している。	週2回の入浴を目安に清潔を確保するよう努めている。入浴時間帯は午前または午後としており、入浴を嫌がる方、体調の優れない方には足浴や清拭または日を替えるなどして対応している。利用者は、歌を唄ったり、時間を忘れて職員と話し込むなど楽しみながら入浴している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホームぼらん室根

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室温や掛物を調整し、また照明や清潔に配慮して快適に眠れるよう支援している。その日の体調や活動に合わせて休息の声かけを行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は受診記録に記入し、薬の説明書を確認し職員間で情報を共有している。また、何か変化があった際は、早急に病院や薬剤師に報告し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技や生活歴に合わせて掃除や手摺り拭き、洗濯物干し、裁縫などの役割を持つことで意欲が保てるよう支援している。また、季節の行事や誕生日会を催し、利用者様と職員と一緒に楽しめよう取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、受診等の外出以外はなるべく控えているが、運動や気分転換の為に近所への散歩や季節のドライブは継続して支援している。	天気の良い日の日向ぼっこや散歩、家族同行による受診が主な外出となっている。コロナ禍でも近場で短時間を心がけながら、季節ごとのミニドライブに出かけ気分転換等を図っている。事業所内での運動会など、レクリエーションは好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金(お小遣い)は基本的にホームで管理しているが、いつでも必要な時に使えることを声かけしている。また、心配な訴えがあった場合は一緒に出納帳を確認し安心していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話や手紙の希望があった際は、直接本人様が電話を掛けたり職員が対応して支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の生活空間は毎日清掃を行い清潔を保ち、整理整頓を心掛け、利用者様にとってストレスとなるような刺激がないように配慮している。また、利用者様手作りの作品や装飾・花などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	共有ホールには、手作りのちぎり絵や塗り絵などが飾られ、玄関には鉢物や生花などが置かれ、ぬくもりが実感される。ホーム周辺には水仙の花などが植えられ、環境美化にもなっている。日々の清掃が行き届き、整理整頓もなされて、清潔感がある。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぼらん室根

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、一人でゆっくりとアルバムや本を眺めたり、窓際で日向ぼっこして過ごしている。時には気の合う利用者様同士で集まりおやつを食べたり、レク活動をして過ごしていただいたりと柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で愛用していたものやご家族が準備したものを使用し、壁にはご本人の希望する物を貼ったり、自宅と同じような心持ちで過ごしていただけるよう工夫している。	居室には、ベッド、洗面台、クローゼット、ハンガーラックが配置されている。テレビやタンスのほか、時計、位牌、カレンダー、塗り絵などの手作りの作品、家族写真を持ち込み、好きな場所に飾っている。室温はエアコンで管理され、快適な環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように居室や浴室、トイレには表示を行なっている。また廊下には夜間足元灯を設置したりトイレの戸を開放するなど安全面に配慮している。		